

目的

- ①中期目標の達成、長期における排出量の大幅削減の実現のための対策・施策パッケージ案、及びそのロードマップの作成
- ②同時に、低炭素社会構築による、雇用・新産業創出効果、副次的効果について検討

STEP1 全体検討会：

- 全体の枠組みを検討
- ①対策・施策パッケージの叩き台(事務局案)を検討
 - 中期(2020年):タスクフォース会合におけるAIM日本技術モデル等の結果
 - 長期(2050年):LCS2050プロジェクト等で検討した2050年の姿
- ②低炭素社会構築による雇用・新産業創出効果について定量的な把握方法を検討
- ①②に関する各WGの検討方針を確認

[1~2月]

STEP2 個別WG(全体検討会含む)

①分野ごとのロードマップの精緻化

- 提示された叩き台を基に分野ごとに再検討
- 主要な対策については、特に詳細かつ具体的なロードマップを作成
- 各対策・施策について、2020年まで及び2050年までの定量化を可能な限り実施

②各対策・施策の実施による雇用・新産業創出効果、副次的効果について掘り下げた検討を実施

前提条件等が明らかであれば、活動量等についても個別WGで独自の想定をおいてもよい
個々の対策は2020年の目標達成、2050年の大幅削減に向けて、大胆に導入するものとする
必ずしも叩き台に縛られる必要はないが、導入量(削減量)が見込みに満たない場合、導入にあたっての具体的な障壁を詳述する

[2~3月]

STEP3 全体検討会+個別WG

①ロードマップのとりまとめと定量化

- 個別WGが見直した対策・施策パッケージに基づき、全体検討会で日本全体の排出量の推移を推計
- 長期目標実現のためのパスという視点から、バックキャストモデル等を用いた中期目標の検討を実施
- 結果的に、2020年、2050年の排出量について大幅削減に向けた大きなギャップが存在する場合、そのギャップを埋めるための追加対策・施策を検討

②日本全体での雇用・新産業創出効果についてもとりまとめ

本調査における検討の枠組みについて

全体検討会

- ・個別WG検討事項のとりまとめ
 - ①中長期目標達成のための対策・施策パッケージ案、及びそのロードマップの作成
 - ②新市場・雇用創出効果、副次的効果についてとりまとめ
- ・個別WGでの検討対象外事項については、全体WGで取り扱い方針を検討

自動車WG

- ・運輸部門に係る対策目標、施策群の検討
- ・特に、環境対応車の普及

住宅・建築物WG

- ・家庭部門・業務その他部門に係る対策目標・施策群の検討
- ・特に、ゼロエミッション住宅・建築物
(建物本体、再生可能エネルギー関係設備、ソフト的な設備)

地域づくりWG

- ・低炭素型の都市・地域づくり、公共交通部門に係る対策目標、施策群の検討
- ・特に、公共交通機関の利用推進、低炭素型都市づくり
- ・特に、農山村のバイオマス供給源、吸収源としての活用

エネルギー供給WG

- ・再生可能エネルギー導入に係る対策目標・施策群の検討
- ・その他のエネルギーの低炭素化のための対策目標・施策群の検討

・他のWGと重複する可能性がある対策でも、対策導入目標、施策についてはWG毎に異なる可能性があるため、ひとまずは重複を気にせず検討を行う。削減効果等の調整は、必要に応じて、別途全検討会又は個別WG間で実施する。

・検討のための知見が不十分な対策がある場合、適宜、専門家からのヒアリングを実施する。この時、各WGは関連する専門家の紹介などに協力する。